

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 2 月 28 日

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 2 年
氏名	齋藤 美保

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
埼玉県 埼玉こども動物園
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
Shape-Japan ワークショップに参加
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 2 月 9 日 ~ 平成 29 年 2 月 11 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
Shape-Japan 事務局 山梨さま
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の出張目的は、Shape-japan が主催するワークショップにおいて、報告者が野生で行っているキリンの研究について講演を行うことであった。このワークショップの参加者の多くは動物園関係者であったため、写真を多く交えキリンの野生での生息環境の様子がよりわかりやすく伝わるように心がけた。発表後には質問を5つほど頂き、普段研究に触れ合う機会が少ない方々にも私の研究に対して興味を持って頂けたのではないかと嬉しく感じた。講演後には、タンザニアで撮影したビデオを見たいと個別に声をかけて頂き、また発表が聞きやすかったというフィードバックを頂き、いい経験となった。今後の反省としては、講演時間を数分オーバーしてしまったので、少し余裕を持たせたスライド構成にしなければいけない、と改めて感じた。

図1. ポニー用のエンリッチメントツール作成の様子
講演の後にはワークショップに参加した。参加者がそれぞれある飼育動物の班に振り分けられ、報告者はポニー班として、ポニーの放飼場に導入するエンリッチメントツールの作成に取り組んだ。報告者にとってエンリッチメントツール作成は初めての経験であり、アイデアを出すところから、実際にツールを組み立てるまで、同じ班の参加者の方々に非常に助けて頂いた。参加者のなかには、動物の行動データのサンプリング方法、それぞれの方法にどのようなメリット・デメリットがあるのか、このような動物を見るときにはこのような失敗があった、など行動データの収集法・分析法をご存知の方から、実際に実施してみてもその経験談までお持ちの方がいて、驚いた。そもそもこのワークショップに参加された方々は動物の行動を評価したい・その方法を知りたいと思っている方々なので、飼育の現場にそのような意識が広く広まってきていることに驚きを感じた。同時に、このようなエンリッチメントを通じて動物の行動を評価することは、動物園動物の飼育環境を向上するうえで重要な要素の一つであるので、そのような流れがあることを知り、嬉しく感じた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

今後もこのような企画・勉強会が様々な場所で開催されることを期待したい。報告者も今回のように野生のキリンの生息環境・野生で見られる行動・飼育下ではなかなか見ることのできない興味深い一面を紹介することで、日本の飼育環境の向上に微力ながら貢献していきたいと思う。



図2. エンリッチメントツールに近づくポニー

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。プログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。